



埼玉県のマスコット コハトン

ライプ・レター
Lib. Letter

2010 Winter [12～2月]季刊

平成22年12月1日 通巻 第22号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

かいてん

『回天』の時代

— 明治維新のひとびと —

「かいてん【回天】(天をめぐるの意) 時勢を一変すること。衰えた勢いを盛り返すこと。」
(『日本国語大辞典 4』小学館 1973.7)。

幕末から明治に至る政治・社会・文化の大変革は、まさにこの言葉がふさわしいダイナミックなものでした。

のちに「明治維新」として語られることになるこの時代、政治的な最も大きな変化はもちろん幕藩体制の崩壊ですが、開国に伴う海外からの近代的制度・文化の流入を忘れることはできません。これまで知らされていなかった新たな社会的・思想的変化を経て、日本は「近世」を抜け、「近代」国家への道を歩むことになりました。その近代化のスピードは当時の欧米列強を驚かせるほどだったと言われています。



そうした激動の時代については、ともすれば時代の変化に大きく関与した人々ばかりに目がいきがちですが、実際にはいかなる変化も革新も、平凡な日常に関わる人たちの存在なしには起こり得ないのです。いわゆる偉人たちだけではない、さまざまな人たちの営みの変化の上に、明治維新という大改革も成立していったのだと言えるでしょう。

今回は、明治維新の概要を押さえながらも、あえていわゆる維新の主導者たちではなく、海外からの変化に関与した人びとや、変わりつつあった当時の生活・文化に着目してみました。

■ 「明治」と「維新」

元号の「明治」は、中国の『易経』にあった「聖人南面して天下を聴き、明に嚮(むか)いて治む」が出典とされています。1868(慶応4)年9月7日夜、天皇睦仁(むつひと)が宮中の賢所で、いくつかの元号候補からくじで「明治」を選び、翌9月8日の一世一元の制の詔で、睦仁治世の元号と決まりました。



一方「維新」は、『詩経』の「周は旧邦と雖(いえど)も、其の命維れ新たなり」や、『書経』の「旧染汚俗、咸(みな)共に維れ新たなり」を出典とするとされ、百事一新を意味します。この二つが結びつけられたのは、明治政府が成立してから少し経った1870(明治3)年のこと(大教宣布)でした。

このように名づけられた明治維新ですが、上から定義された維新(ご一新とも)に対して当時の庶民が必ずしも納得していたわけではなく、「上からは明治だなどといふけれど治明(おさまるめい)と下からはよむ」と揶揄されたりもしていたようです。

明治維新をいつからいつまでのことと定義するかについては、学説によっていくつかの考え方があります。始期としては、天保期（1830-43）、開国期（1854-58）、改元もしくはその前年（1867-68）といった時期があげられ、一方終期も、廃藩置県（1871）、自由民権運動の始まり（1874）、西南戦争鎮圧（1877）、沖縄県の成立（1879）、明治14年の政変（1881）、秩父事件発生（1884）、大日本帝国憲法・教育勅語発布（1889-90）など、さまざまな時期があげられています。今回は、「黒船」来航（1854）から、沖縄県の設置（琉球処分）による廃藩置県の完成（1879）までを一区切りとして、いわゆる維新时期に起きた出来事をご紹介します。

明治維新関連年表

1853（嘉永6）	6	ペリー浦賀に来航
	7	ロシア使節プチャーチン長崎に来航
	10	13代将軍に徳川家祥（のち家定）就任
1854（安政1）	1	ペリー再来
	3	日米和親条約調印（以後、各国と調印）
1855（安政2）	10	佐倉藩主堀田正睦、老中首座就任
1856（安政3）	7	米総領事ハリス、下田着任
1857（安政4）	5	下田条約締結
1858（安政5）	4	彦根藩主井伊直弼、大老就任
	6	日米修好通商条約に調印（以後、安政五ヶ国条約調印）
	9	安政の大獄開始
1859（安政6）	10	14代将軍に徳川家茂就任
	5	神奈川、長崎、函館開港
1860（万延1）	10	吉田松陰ら刑死
	3	桜田門外の変（大老井伊直弼暗殺）
	3	五品江戸廻令（重要輸出五品の直接輸出禁止）
1861（文久1）	5	久世広周、安藤信正政権成立
	2	対馬事件（ロシア軍艦が対馬を一時占拠）
	3	幕府、仏蘭米英露5ヶ国に両都（江戸・大坂）および両港（兵庫・新潟）開市開港延期要請
1862（文久2）	1	坂下門外の変（老中安藤信正負傷）
	2	将軍徳川家茂、仁孝天皇第八皇女和宮と婚儀
	4	寺田屋事件（寺田屋騒動とも）
	8	生麦事件
	12	長州藩高杉晋作らイギリス公使館襲撃。 この年から翌年にかけて尊攘運動高まる。
1863（文久3）	5	長州藩、外国船砲撃
	6	高杉晋作ら、奇兵隊結成
	7	薩英戦争勃発
	8	8月18日の政変、天誅組挙兵
1864（元治1）	10	生野の変
	1	参預会議開催
	3	フランス公使ロッシュ着任
	3	天狗党挙兵
	6	池田屋事件
1864（元治1）	7	禁門の変（蛤御門の変）。第1次長州征伐発令
	8	4国連合艦隊下関砲撃
	12	高杉晋作ら下関に挙兵

1865 (慶應1)	5 イギリス公使パークス着任 9 第2次長州征伐発令 10 (日米修好通商) 条約勅許
1866 (慶應2)	1 薩長同盟成立 5 改税約書調印 6 第2次征長開戦 7 徳川家茂没 12 15代将軍に徳川慶喜就任 12 孝明天皇没
1867 (慶應3)	1 明治天皇踐祚 (せんそ) ※前天皇の崩御により位を受け継ぐこと 6 薩土盟約 10 大政奉還成る。倒幕の密勅 11 坂本龍馬ら暗殺 12 王政復古の大号令。兵庫開港、大阪開市。 小御所会議開催。
1868 (明治1)	1 戊辰戦争開始 3 五箇条の誓文、五榜の揭示。 3 神仏判然令。以後、 廃仏毀釈 運動起こる。 4 政体書頒布、 江戸城開城。 5 奥羽越列藩同盟成立、彰義隊敗北。 7 江戸を東京と改称 9 一世一元の制を定める (明治の改元)。会津藩降伏。 10 藩治職制制定
1869 (明治2)	3 公議所開所。天皇、東京着 (事実上の遷都)。 5 五稜郭陥落。 戊辰戦争終結。 6 版籍奉還。 公卿・諸侯を華族とする。 12 長州藩で諸隊反乱。
1870 (明治3)	1 大教宣布 (神道国教化を志向した詔書) 10 兵制統一を布告、海軍はイギリス式、陸軍はフランス式となる。 12 新律綱領制定。
1871 (明治4)	2 薩長土3藩より親兵1万徴集。 4 戸籍法公布 (翌年実施、壬申戸籍)。 7 廃藩置県 7 日清修好条規調印 8 〈えた〉〈非人〉の称、廃止 (〈新平民〉等の呼称で差別継続) 11 岩倉使節団、欧米へ出発
1872 (明治5)	7 マリア・ルース号事件。壬申地券交付 8 学制制定 9 琉球藩設置 11 太陽暦 採用
1873 (明治6)	1 徴兵令布告 7 地租改正条例 9 岩倉使節団帰国 10 10月の政変 (征韓論 分裂)。 11 内務省設置
1874 (明治7)	1 愛国公党結成。板垣退助ら民撰議院設立建白書提出。 以後、 自由民権運動 起こる。 2 佐賀の乱 4 立志社創立

	5 台湾出兵 6 北海道に屯田兵制度を設ける。
1875 (明治8)	2 大阪会議 4 漸次立憲政体樹立の詔勅 5 樺太・千島交換条約調印 6 讒謗律・新聞紙条例公布 9 江華島事件
1876 (明治9)	2 日朝修好条規調印 3 廃刀令 8 金禄公債証書発行条例公布 8 札幌農学校開校 10 熊本神風連の乱、秋月の乱、萩の乱相次ぐ。 12 茨城、三重、愛知などに地租改正反対大一揆
1877 (明治10)	1 地租軽減 (3%から2.5%へ) 2 西南戦争開始 4 東京大学開設 5 木戸孝允病没 6 立志社の片岡健吉ら国会開設を建白 8 第1回内国勸業博覧会 9 西郷隆盛自刃。西南戦争終結
1878 (明治11)	5 大久保利通暗殺 (紀尾井坂の変) 7 三新法 (郡区町村編制法、府県会規則、地方税規則) 公布 8 竹橋事件 9 愛国社再興大会開催 12 参謀本部設置
1879 (明治12)	4 沖縄県設置 (琉球処分) 7 アメリカ前大統領グラント来日 9 教育令制定 12 モース、大森貝塚の調査発表

※『世界大百科事典 28』(平凡社 2005)を参考にしました。

■お雇い外国人

「お雇い外国人」とは、とくに幕末・明治の日本で、政府・民間を問わず、各機関や個人に雇われ、政治・法制・産業・財政・教育・文化・技術・医学などにわたる分野で、日本の近代化に貢献する役割を担って活動した来日西洋人のことを言います。

1874 (明治7)年から1875 (明治8)年ごろにその数は最大に達し、民間での雇用者も加えると約850人の外国人が働いていました。彼らは総じて高額な給与を貰い、



その他に海外および日本国内雇用地からの往復運賃、職務のための交通費、住居費、娯楽費なども支給されていたと言います。

こうしたお雇い外国人の経費は政府財政を圧迫しましたが、その一方でかえって外国 (人)への依存から一日も早く自立しようという気運が高まりました。

ジョサイア・コンドル (Josiah Conder) (1852-1920)

1877 (明治10)年、工部大学校造家学科の教師として招かれ、同時に工部省のお雇い技師となりました (宮内省へも出仕)。1888 (明治21)年には個人の建築設計事務所を設け、日本人の妻くめと日本で生涯をおくりました。日本での生活は44年間におよび、生涯で設計した建築物は有名な鹿鳴館を含めて約80件にのぼります。


その結果、わずか15年間という短期間で彼らに代わることのできる日本人が増え、「お雇い外国人」の数は急速に減少していったのです。

彼らのほとんどは契約満了後、それぞれの母国に帰りましたが、日本人の伴侶を得て、日本に永住した人たちもいました。維新期の人としては、鹿鳴館を設計したジョサイア・コンドルなどがいますし、もっと後年になると、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が有名です。彼らは日本に西洋の知識・文化を広めると同時に、日本の文化を愛し理解した人たちでもあったのです。

■人々の生活

明治元年当時、還暦をはるかに過ぎていた越後国蒲原郡北五百川村（現三条市）の庄屋藤田嘉源治は、自分の住む里山の変化を以下のように書き残しています。

「文政6、7年、自分が二十歳のころ、厚畳を敷いている家は村に寺をふくめて4軒しかなかった。絹の下着を用い、雨戸を入れているのは1、2軒、屏風は3、4軒、弓張提灯や掛物は稀だった。清酒は用いず、天塩皿は平の小さな瀬戸物で、夜は松節を灯した。それから40年ばかりの間に、たいそう華美になった。壁に上塗りをして、座敷には厚畳を用い、座敷・寝間まで雨戸を入れた家は、村に15軒ある。炬燵着物は茄子紺微塵縞、膳碗には木地物を用いず、吸物膳碗は皆朱色だ。掛物は絹地で、書画も名人の作を選ぶ。大方の家では上雪隠をこしらえ、不用の脇差や槍・

 <衣> 男性の断髪や洋服着用は意外に早く大流行し、和洋混淆をはじめ奇妙な風体が氾濫した。それに対し女性の髪形や服装は、なかなか変わらなかった。

<食> 肉食の普及から、牛鍋が全国の都会地に流行し、開化の象徴のようになっていった。また、牛乳、パン、アイスクリーム、ビールなどが普及した。



<住> 洋風建築は、まず公共の建築物から普及した。レンガやガラスなどが使われたが、その焼成もまた西洋技術導入の一つだった。

一般家庭では行灯に代わって、ランプが登場し、街中にはガス灯が灯って、夜の様相を大いに変えた。

袖搦みなどを飾っている。提灯は弓張、傘は晴天雨天とも蛇の目、女は緋縮緬の結山笠である。この末40年も過ぎたら、どうなるのだろうか。恐るべし、恐るべし。」

（佐藤誠朗『幕末維新の民衆世界』（岩波書店 1994.4）より）

明治維新を迎え、今までの生活習慣とは全く違う「文化」が入ってきたことは、庶民の目から見ればちょっとした恐怖であったと思います。しかしそれと同時に、人々の生活に豊かさを与えたこともまた事実です。ここでは庶民生活に欠かせない「衣食住」の3つに重点を置き、人々の生活がどのように変わっていったのか、集めてみました。

■ より詳しく知りたい方へ ～県立熊谷図書館にある今回の展示資料～

※『書名（：副書名、巻号）』著者名 出版者 出版年【県立図書館の請求記号】

※以下に掲載した資料は、県立熊谷図書館2階ロビーで2月24日まで展示中です。

* 印の資料は、館内利用のみとなります。（館外貸出はできません。）

（維新期のできごと）

- ・『維新史 第1巻』維新史料編纂会／編 文部省 1942.11【210.61/イ/】
- ・『維新史 第2巻』維新史料編纂会／編 文部省 1942.11【210.61/イ/】
- ・『維新史 第3巻』維新史料編纂会／編 維新史料編纂事務局 1941.12【210.61/イ/】
- ・『維新史 第4巻』維新史料編纂会／編 文部省 1942.10【210.61/イ/】

- ・『維新史 第5巻』維新史料編纂会／編 文部省 1942.10 【210.61/イ/】
- ・『維新史 附録』維新史料編纂会／編 文部省 1943.6 【210.61/イ/】
- ・『将軍が撮った明治』徳川慶喜／写真 朝日新聞社 1986.10 【BM210//】
- ・『徳川慶喜の歴史散歩』保科輝勝／著 なあぶる 1997.12 【BM289//】
- ・『藤田東湖全集 第1巻 回天詩史／常陸帯』高須芳次郎／編著 章華社 1935 【121/F67/】
- ・『神々の明治維新（岩波新書103）』安丸良夫／著 岩波書店 1979.11 【160.2/カ/】
- ・『明治維新廃仏毀釈』圭室諦成／著 白揚社 1939.10 【180/Ta78/】
- ・『図説・明治の群像296（歴史群像シリーズ）』学習研究社 2003.11 【210/スセ/】
- ・『王政復古の歴史』萩野由之／講 明治書院 1918.10 【210.5/オウ/】
- ・『近世日本国民史 第31 彼理来航及其当時』徳富猪一郎／著 明治書院 1934 【210.5/To45/】
- ・『近世日本国民史 第43 桜田事変』徳富猪一郎／著 明治書院 1936 【210.5/To45/】
- ・『近世日本国民史 第44 開国初期篇』徳富猪一郎／著 明治書院 1936 【210.5/To45/】
- ・『ペリー提督日本遠征記』合衆国海軍省／編 法政大学出版局 1953 【210.58/ア/】
- ・『黒船記』川路柳虹／著 法政大学出版局 1953 【210.58/カ/】
- ・『黒船異変（岩波新書の江戸時代）』加藤祐三／著 岩波書店 1993.7 【210.58/ク/】
- ・『黒船前後の世界』加藤祐三／著 岩波書店 1985.11 【210.58/ク/】
- ・『幕末維新史料叢書 第7 回天実記』土方久元／著 新人物往来社 1969 【210.58/バ/7】
- ・『現代日本記録全集 第3 士族の反乱』筑摩書房 1970 【210.6/ゲ/】
- ・『大政奉還と討幕の密勅』石尾芳久／著 三一書房 1979.12 【210.6/タ/】
- ・『廃藩置県（中公新書805）』松尾正人／著 中央公論社 1986.6 【210.6/ハ/】
- ・『明治天皇のみことのり』明治神宮／編 日本教文社 1975.11 【210.6/メイ/】
- ・『維新回天の偉業における水戸の功績』徳富猪一郎／著 民友社 1928.5 【210.6/To45/】
- ・『王政復古（中公新書1033）』井上勲／著 中央公論社 1991.8 【210.61/イ/】
- ・『函館戦争と五稜廓（函館叢書）』宮崎大四郎／著 紅茶倶楽部 1923.9 【210.61/ハコ/】
- ・『戊辰戦争（中公新書455）』佐々木克／著 中央公論社 1977.1 【210.61/ボ/】
- ・『征韓論政変』姜範錫／著 サイマル出版会 1990.7 【210.62/セ/】
- ・『西南戦争（日本歴史新書36）』圭室諦成／著 至文堂 1966.11 【210.62/タ/】
- ・『西南戦役側面史』下田曲水／編著 熊本城址保存会 1939.3 【210.627/セイ/】
- ・『自由民権運動（草の家ブックレット no.2）』平和資料館・草の家 1992.10 【210.63/H51/】
- ・『江戸東京歴史読本』小森隆吉／著 弘文堂 1984.9 【213.6/Ko67/】
- ・『末松謙澄と「防長回天史」』金子厚男／著 新潮社 1980 【217.7/スエ/】
- ・『明治国家と沖縄』我部政男／著 三一書房 1979.10 【219.9/メ/】
- ・『琉球処分論（タイムス選書8）』金城正篤／著 沖縄タイムス社 1980.1 【219.9/リ/】
- ・『徳川慶喜公』中村孝也／著 徳川慶喜公事蹟顕彰会 1968.11 【289.1/ト/】
- ・『吉田松陰（For beginners シリーズ）』三浦実／文 現代書館 1982.2 【289.1/ヨ/】
- ・『吉田松陰の研究』広瀬豊／著 マツノ書店 1989.6 【289.1/ヨ/】
- ・『明治六年太陽暦：神武天皇即位紀元二千五百三十三年』〔出版者不明〕〔187-〕【ア449/メ/】*
- ・『明治開化の本』国立国会図書館／編 国立国会図書館 1971 【R210.6/Ko49/】*
- ・『幕末維新戊辰戦争事典』太田俊穂／編 新人物往来社 1980 【R210.6/081/】*
- ・「イラストでみる函館戦争」（戊辰戦争120年記念特集号）『歴史読本／別冊ビジュアル版』
新人物往来社 1988.8.25 【雑誌】*
- ・「特集 大政奉還 徳川政権の最期」『歴史読本』34(15)（通巻506）新人物往来社 1989.8.1
【雑誌】*
- ・「戊辰戦争」（歴史読本セレクト 幕末維新シリーズ2）『歴史読本／別冊特別増刊』18(9)（通巻
197）新人物往来社 1993.4.23 【雑誌】*
- ・「特集 大老暗殺 桜田門外の変」『歴史読本』38(9)（通巻593）新人物往来社 1993.5.1
【雑誌】*

（お雇い外国人）

- ・『現代世界に生きるキリスト教』明治学院大学キリスト教研究所 1987. 6 【190. 4/ゲ/】
- ・『明治維新とあるお雇い外国人：フルベッキの生涯』大橋昭夫／著 新人物往来社 1988. 10
【198. 3/メ/】
- ・『フルベッキ書簡集』フルベッキ／著 高谷道男／編訳 新教出版社 1978 【198. 3/V61/】
- ・『お雇い外国人：明治日本の脇役たち（日経新書）』梅溪昇／著 日本経済新聞社 1965. 7
【210. 6/ウ/】
- ・『お雇い外国人 1 概説』鹿島出版会 1968. 4 【210. 6/オ/】
- ・『お雇い外国人 9 医学』鹿島出版会 1969. 9 【210. 6/オ/】
- ・『お雇い外国人 11 政治・法制』鹿島出版会 1971. 12 【210. 6/オ/】
- ・『お雇い外国人 15 建築・土木』鹿島出版会 1976. 3 【210. 6/オ/】
- ・『お雇い外国人の研究 上巻』梅溪昇／著 青史出版 2010. 2 【210. 6/オヤ/】
- ・『お雇い外国人の研究 下巻』梅溪昇／著 青史出版 2010. 9 【210. 6/オヤ/】
- ・『開化異国（おづくに）助っ人奮戦記』荒俣宏／著 小学館 1991. 2 【210. 61/A64/】
- ・『近代化の推進者たち：留学生・お雇い外国人と明治』アードス・バークス／編 思文閣出版 1990. 2
【210. 6/B92/】
- ・『日本の近代化とお雇い外国人』村松貞次郎／著 日立製作所 1995. 9 【210. 61/ニ/】
- ・『大志と野望：ウィリアム・スミス・クラークの足跡をたずねて』北海道放送『大志と野望』特別取材班／著 KABA書房 1981. 11 【289/ク/】
- ・『日本医学の開拓者エルウィン・ベルツ』Gerhard Vescovi／著 石橋 長英, 今井 正／共訳 日本新薬 1974. 11 【289/ベ/】
- ・『クラーク先生とその弟子達』大島正健／著 大島正満／補訂 新教出版社 1948 【289. 3/ク/】
- ・『W・S・クラーク：その栄光と挫折』ジョン・M. マキ／〔著〕北海道大学図書刊行会 1986. 12
【289. 3/ク/】
- ・『クラークの手紙』ウィリアム・スミス・クラーク／〔著〕北海道出版企画センター 1986. 6
【289. 3/ク/】
- ・『鹿鳴館を創った男』畠山けんじ／著 河出書房新社 1998. 2 【289. 3/コン705/】
- ・『「鹿鳴館の建築家ジョサイア・コンドル展」図録』鈴木博之／監修 建築画報社 2009. 12
【289. 3/コン705/】
- ・『花・ベルツへの旅』真寿美・シュミット＝村木／著 講談社 1993. 8 【289. 3/ベ/】
- ・『ベルツの生涯』安井広／著 思文閣出版 1995. 6 【289. 3/ベ/】
- ・『ベルツ博士と群馬の温泉（上毛文庫 20）』木暮金太夫／編著 上毛新聞社 1990. 6 【289. 3/ベ/】
- ・『ベルツ花』鹿島卯女／著 鹿島研究所出版会 1972 【289. 3/ベ/】
- ・『エルウィン・フォン・ベルツ（伝記叢書 191）』ショットレンダー／著 大空社 1995. 10
【289. 3/B16/】
- ・『クラーク先生詳伝（伝記叢書 192）』逢坂信＝／著 大空社 1995. 10 【289. 3/C74/】
- ・『資料御雇外国人』ユネスコ東アジア文化研究センター／編 小学館 1975. 5 【R210. 6/シ/】*
- ・「明治ニッポンの家庭教師たち 「お雇い外国人」を知っていますか？」『東京人』20(10)（通巻219）都市出版 2005. 10. 3 【雑誌】*
- ・「お雇い外国人と弟子たち 1 フルベッキ」『歴史読本』55(1)（通巻847）新人物往来社 2010. 1. 1 【雑誌】
- ・「お雇い外国人と弟子たち 1 コンドル」『歴史読本』55(3)（通巻849）新人物往来社 2010. 1. 1 【雑誌】
- ・「お雇い外国人と弟子たち 5 ベルツ」『歴史読本』55(5)（通巻851）新人物往来社 2010. 5. 1 【雑誌】

（維新期の衣食住）

- ・『東京和館』淡交社 2004. 6 【BM521/トウ/】
- ・『近代埼玉の建築探訪』朝日新聞さいたま総局／編 さきたま出版会 2006. 9 【BM523/キン/】
- ・『めいじの暮らし（れきし絵本館）』岡本一郎／文 チャイルド本社 2009. 1 【BM 児童/メイ/】
- ・『日本の時代史 21 明治維新と文明開化』石上英一／〔ほか〕編 吉川弘文館 2004. 2

【210. 1/ニホ/】

- ・『長崎唐館図集成（関西大学東西学術研究所資料集刊 9-6）』大庭脩／編著 関西大学出版部 2003. 11 【210. 5/ナカ/】
- ・『幕末維新の民衆世界（岩波新書 新赤版 3 3 3）』佐藤誠朗／著 岩波書店 1994. 4 【210. 58/バ/】
- ・『明治大正見聞史（中公文庫）』生方敏郎／著 中央公論社 1978. 10 【B210. 6/ウ/】
- ・『絵はがきで見る日本近代』富田昭次／著 青弓社 2005. 6 【210. 6/エハ/】
- ・『近代社会を生きる（近現代日本社会の歴史）』大門正克／編 吉川弘文館 2003. 12 【210. 6/キン/】
- ・『近代日本文化論 3 ハイカルチャー』青木保／〔ほか〕編 岩波書店 2000. 3 【210. 6/キン/】
- ・『近代日本文化論 5 都市文化』青木保／〔ほか〕編 岩波書店 1999. 4 【210. 6/キン/】
- ・『暮らしの世相史：かわるもの、かわらないもの（中公新書 1 6 6 9）』加藤秀俊／著 中央公論新社 2002. 11 【210. 6/クラ/】
- ・『明治の文明開化・事始め』西田文四郎／編 金園社 1969. 4 【210. 6/メ/】
- ・『文明開化（教育社歴史新書〈日本史〉 1 5 0）』井上勲／著 教育社 1986. 4 【210. 61/ブ/】
- ・『米がつくった明治国家』山内景樹／著 かんぼうサービス 2004. 12 【210. 69/コメ/】
- ・『東京庶民生活史研究』小木新造／著 日本放送出版協会 1979. 11 【213. 6/025/】
- ・『横浜フランス物語』富田仁／編 産業技術センター 1979. 2 【213. 7/ヨ/】
- ・『明治天皇紀 第2』宮内庁／〔編〕 吉川弘文館 1969. 3 【288. 4/ク/】
- ・『日本人の生活史』増沢淑／著 日本書房 1942. 2 【オ 382. 1/マ/】
- ・『きもの（民俗選書）』瀬川清子／著 六人社 1942. 11 【オ 383. 1/セ/】
- ・『食物の歴史（河出新書）』後藤守一／著 河出書房 1956. 12 【オ 383. 8/ゴ/】
- ・『ビジュアル・ワイド*明治時代館』佐々木隆／〔著〕 小学館 2005. 12 【R210. 6/ヒシ/】 *
- ・「明治という時代」『日録20世紀』3(8)（通巻100） 講談社 1999. 3. 2 【雑誌】 *

【関連団体・webサイトのご紹介】

【ALE-NET：NPO学習環境デザイン工房と光村図書出版によるALE研究会運営の総合学習サイト】

- ・<http://www.ale-net.com/hpcs/sha/meijiisin/index.htm>

【学研キッズネット上の学習百科事典より】

- ・<http://kids.gakken.co.jp/jiten/7/70008210.html>

【Wikipediaリンク：明治の人物一覧】

- ・<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E6%B2%BB%E3%81%AE%E4%BA%BA%E7%89%A9%E4%B8%80%E8%A6%A7>

【あしたね：学校ネット株式会社運営の職業調べ・進路学習サイト】

（検索キーワード：明治時代の人物）

- ・<http://n.ashitane.net/>

【明治維新で活躍した留学経験者について】

- ・http://fxthegate.com/2008/12/55_1.html

※上記以外にも、県立図書館では明治維新に関する資料を所蔵しております。お探しの資料がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

